

# 芦屋市の蝶

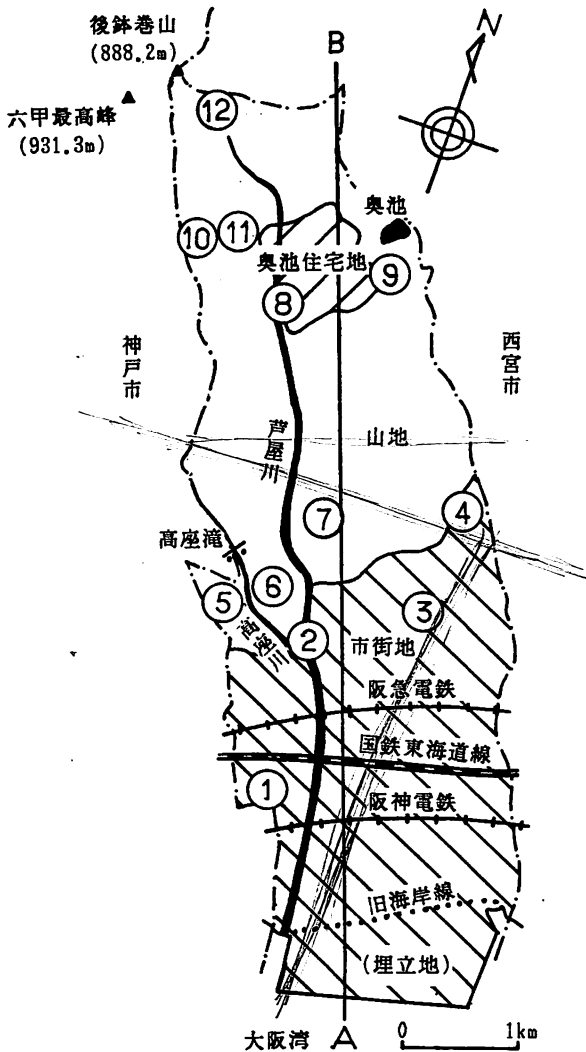
## 西 隆 広

### I. はじめに

芦屋市は大阪湾に面し、幅2～2.5km、奥行8km程の都市で、面積17.25km<sup>2</sup>は兵庫県下各市の中で最も狭く、隣接する西宮市の1/5.7、神戸市の1/31.4に過ぎない。本市は阪神間における住宅都市として知られ、市

民83570人(1982年10月1日現在)の大部分は南部市街地に居住している。北部は六甲山地の一部をなしており市境界は六甲山頂付近に達し、草原や湿地を点在させた山林が主体となっているが、開発の圧力はこの地域にまで及び、すでに奥池付近の丘陵地帯は宅地化され、また東お多福山麓地域でも現在開発が進んでいる。

図1 芦屋市概念図(市境界は芦屋市資料による)



私は芦屋市に住んで30有余年、その間10年程の中断があったが昆虫、特に蝶の採集を趣味としてきた。そしてここ3～4年、芦屋市の蝶についてまとめてみようと思立ち、市内を重点とした採集、観察を行ってきた。芦屋市は狭く、蝶の採集地として知られる六甲山地の大部分は西宮市および神戸市に含まれ、従来本市の蝶の記録は2市に比較してごく少ない。現実を熟視すれば特異な生息環境があるわけではなく、また面積もごく狭い本市の記録はこれまでに周知の六甲山地の記録を超えるものでなく、本報告の意義に多少の疑念を禁じ得ないが、本市に住むものとして、六甲山地のある狭間の地の記録を発表することにした。

図1に芦屋市の概要及び本報告に例示した採集地、観察地の位置を示し、また表1には採集地・観察地の地名等を示した。

図2 断面図(A—B Line)

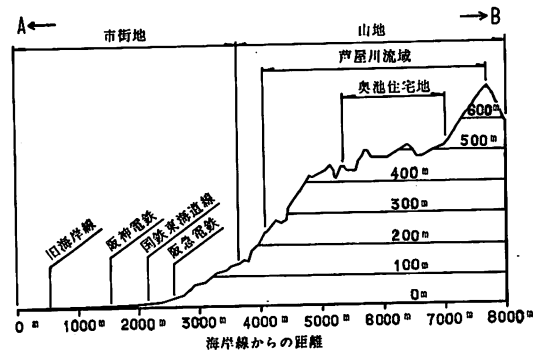


表1 採集地、観察地名一覧表

番号	地名	町名	標高 (m)
①	川西・津知	川西町・津知町	7~10
②	芦屋川	山芦屋町・山手町	50~80
③	朝日ヶ丘	朝日ヶ丘町	50~100
④	六麓荘	六麓荘町	100~200
⑤	三条山城	三条町	100~250
⑥	城山	城山	150~270
⑦	柿谷	奥山	180~230
⑧	芦屋川上流	奥池南町	380~450
⑨	奥池付近	奥池南町・奥池町	450~550
⑩	東お多福山	奥山	550~690
⑪	蛇谷	奥山	480~600
⑫	石宝殿付近	奥山	800~860

II. 生息環境

西宮市西部から神戸市中央部に至る大阪湾岸地域は阪神地方の一部として市街地が稠密に広がっているが六甲山地が海岸線に接近していることから平野部は少なく、市街地の上限は山麓に深く入り込んでいる。その間にある芦屋市もその例にもれず図2に示す断面では市街地は南端の海岸線（現在の海岸線は埋立地前面である）より連続して北へ約3.7km、標高約150m付近に及んでいる。それより北方はおおむね山地であるが、一部標高500m前後の地域にまとまった住宅地がある。市内の最高標高は後鉢巻山の888.2m、山地の地形は一般に急峻で平坦な高原状は少ない。

芦屋市の気候は冬季の少雨乾燥と夏期の多雨湿潤が基本であるが、8月は高温かつ少雨季で市街地、山地ともに乾燥し、蝶の姿は極端に減少する。図3は市内平野部と六甲山地の気象をクライモグラフで示したものである（六甲山地では本市内の気象データが得られなかったため神戸市灘区の六甲山高山植物園でのデータにもとずいて作成した。同地点は後鉢巻山の南西約3kmにあり標高865mは本市の最高標高に近く、同地点のデータは本市標高の上限地域の気象を代表し得るものとして使用した。なお平野部とは統計年数が異なる）。年平均気温および年降水量は表2に示すとおりで平均気温は平野部が5.5℃高く、降水量は山地が0.052mm多くほぼ2倍になっており、平野部から山地に

向って高温乾燥から低温湿潤へと遷移し、その幅はかなり大きく、気候環境は変化に富み多様な植生を可能としているはずであるが、今日原植生を彷彿させるものは市内にはない。後述するようにこの気象環境の幅は土壌制約によって現在の植生にかならずしも有意には作用していないようである。

次に本市を南部市街地と北部山地に分けて生息環境を説明する。

図3 平野部及び山地の気候

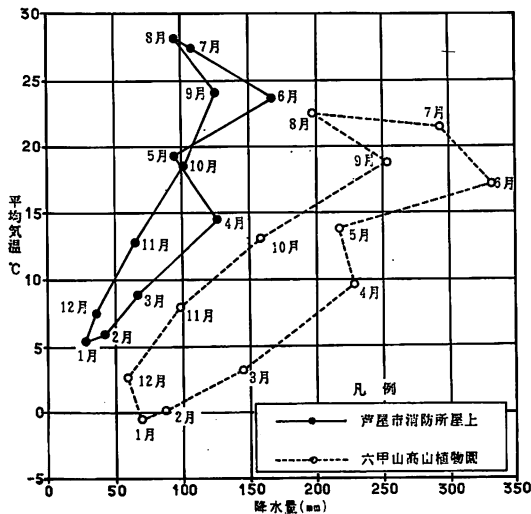


表2 気候諸元

	芦屋市消防本部	六甲山高山植物園
年平均気温	16.3℃	10.8℃
年降水量	1064mm	2116mm
所在地	芦屋市精道町	神戸市灘区六甲山町
標高	約20m	865m
統計年	1973~1982	1978年以前で21年以上
出典	参考文献22.	参考文献23.

(1) 市街地

市街地は一般に高度に利用され、一見緑深き庭園等もあるが人工的で、自然度はごく低い。この環境で生息できる蝶はごく限られる。山麓に近い市街地北部を

除く地域で見かける蝶といえば庭園を構成する植物を食餌とするアゲハ類を始め家庭菜園の耕地に見られるモンシロチョウ、ヤマトシジミそれにキチョウ、ホシミスジ、ルリタテハ等で、その他秋に見られるウラナミシジミやイチモンジセセリを加えても種数は限られており、個体数も一般に少ない。市街地西部には芦屋川が流下しているが阪急電鉄軌道より南部の河川敷の自然度はごく低い。北部はやや高く、見かける蝶も種数を増す。市街地も山麓付近まで達すると自然度は高くなり、山地からの飛来もあるためか種数はにわかに増す。また本市の南端は近年完成した埋立地があり、主として住宅地として利用されているが、一部まだ建設されておらず空地のままの地域が雑草原となって、そこに市街地では殆ど見かけないモンキチョウやツバメシジミ等が多数生息する。

ところで平野部における市街地の発達には本市の蝶相にどのような影響を与えたであろうか。原植生から耕地への変遷による影響は知るよしもないが、ここ数十年田園から都市への過程で多くの蝶が駆逐されたことは間違いない。現在山麓部を除く市街地ではジャノメチョウ科は全くと言っていい程見かけないが、かつては広く生息していたはずである。また図3、表2に示すように本市南部はかなり温暖で、気温条件からいえばツマグロヒョウモンの生息は可能であるはずだが、本市を含む当地方には稀である。これは高度な市街化によって平野部に食草等に関する越冬環境が殆どないことが一因として考えられる。一方近年定着したナガサキアゲハは主たる食草を *Citurs* 属としているが、本種は当地方の原植生では稀であるはずの *Citurs* 属が市街化等によって人為的に移植され定着し生息が可能となった種の代表である。

## (2) 山 地

本市山地を含む表六甲（六甲山南面）は“乾いた”という印象を受ける地域で、山地内を歩いてみても一般に湿気に乏しい。これは当地方を含む瀬戸内海気候地域の特徴である少降水量の他、地形が急峻な上に風化花崗岩からなる保水性の乏しいマサ（真砂）が表層に広く分布しているため、植生は貧弱で市街地から眺めると本市の山地は発育の悪いアカマツばかりが目につく地域である。

本市山地は生息環境の観点に立つと南部、中南部、中北部、北部の4地域に分けることができる。

南部地域は山麓から山地へ移行する地帯で芦屋川右岸域は芦屋川流域、左岸域は概ね宮川等市内小河川の流域である。芦屋川右岸域には山麓から中腹にかけて

局地的に良好な生息環境がある。この地域内の城山（271.8 m 鷹尾山の通称）山頂付近は本市アゲハ類の種および個体数の格好の観察地となっており、また稀ながらオオミドリシジミやアオパセセリを産する。芦屋川左岸地域は一般に裸岩の多い乾燥したアカマツ林であり、あまり良好な生息環境は見られないが、未踏査地の多いところである。（地点番号⑤、⑥、⑦が本地域に含まれる。以下同じ）

中南部地域は荒地山（548.5 m）からごろごろ岳（565.6 m）に至る地帯で芦屋川流域内である。地形は急峻で乾燥しており裸岩が多く、貧弱なアカマツ林が目立つ。殆ど未踏査地域である。（一）

中北部地域は東お多福山（695.8 m）から奥池（水面標高約500 m）へ至る地帯で芦屋川流域内である。大阪群層（洪積層）の存在が知られる丘陵状の地域で草原や湿地が一部見られ、かつては裸地を交えたアカマツ、コナラの疎林で構成されていたが、現在はゴルフ場や住宅地が拡がり良好な環境は局限されている。本市の蝶の中には本地域のみに見られ、あるいは多く見られるものが数種あり、本市蝶相上の重要な地域である。（⑧、⑨、⑩、⑪）

北部地域は六甲山地の脊梁の一部をなす後鉢巻山（888.2 m）、蛇谷北山（839.7 m）を中心とした山岳地帯で大半は芦屋川流域であるが、一部住吉川および武庫川流域に属している。アカマツ林を主体としており、800 m以上ではブナ、イヌブナの自生地がわずかにある。局地的にヒメキマダラセセリを多産する他には蝶相は特徴に乏しい。（⑫）

ところで山地は原植生は失われたとはいえ二次林は健在し、一部に近年の開発の影響による絶滅種の存在が推定されるもののおお70種以上の記録を数え、平野部の市街化に見る程の環境の激変はなかったと考えられる。それでもかなりの種の蝶が本市内においては谷筋を中心とした植生のより豊かな地域に偏在する傾向を見せ、個体数も全般に少ないことから、種の絶滅までには至らぬものの原植生の喪失は、本市をはじめ六甲山城の蝶相に多大の影響を与えたことは想像に難くない。現在六甲山地に広く見られるマサは原植生の喪失による原植生の表土の流亡によるところが大と考えられるが、マサはきわめて保水性に乏しく、かつ不安定で崩壊しやすくこのため表2の気象条件の幅にかかわらず土壌的制約によって植生の幅は狭く、生息環境は貧弱となっている。

二次林成立後の蝶相には大きな変動はないと考えるが、ここ20年程の間に個体数が激減している種があり、今後の推移が注目される。

4990

## Ⅲ. 芦屋市で記録した蝶

芦屋市内で私が記録した蝶は現在まで8科74種である。この中には記憶にもとずき現在標本も正確なデータもない2種を含んでいる。この2種を除く72種についてはすべて採集例を示しているが、その位置等については図1、表1に示しているので参照されたい。採集例は採集を再開した1976年以後のもので、例示した個体は現在まですべて私が保管している。採集者名はすべて私であるため記載していない。なお以下で本年と記述しているのは1983年を示す。

## 1. アゲハチョウ科 PAPILIONIDAE

(1) ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* KLUG

芦屋川上流⑧から蛇谷⑩にかけて分布する。また住吉川流域にも分布する。夏型の姿は少ない。

採集記録は5月、6月である。

○採集例 16-V-1982 2♂2♀ 蛇谷⑩

(2) アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* LINNAEUS

市街地から山地にかけて広く見られる。かつて自宅(川西町①)の庭にあったクスノキでよく発生した。ヤブガラシに訪花する姿をよく見かける。

採集記録は5月のみであるが9月頃まで見ることができる。

○採集例 10-V-1981 1♂ 城山⑥

(3) キアゲハ *Papio machaon* LINNAEUS

主として山地に分布し雄は各山頂でよく見かける。市街地では少ないが国鉄東海道線沿いの菜園で幼虫を見かけたことがある。

採集記録は4月、6月、8月、9月である。

○採集例 9-IX-1979 1♂ 城山⑥

(4) アゲハ *Papilioxuthus* LINNAEUS

市街地から山地まで広く分布し、雄は各山頂でよく見かける。幼虫は山地でイヌザンショウ、市街地では各種ミカン、サンショウで見られる。産卵は樹高にこだわることなく行われている。

採集記録は5月、8月であるが、4月から10月までみられる。

○採集例 16-V-1982 1♀ 奥池付近⑨

(5) モンキアゲハ *Papilio helenus* LINNAEUS

山麓から山地に分布する。雄は各山頂で見かけ

るが、他のアゲハ数より個体数は少ない。目撃した最高標高は東お多福山⑩である。

採集記録は5月、8月、9月である。

○採集例 10-V-1981 1♂ 城山⑥

(6) クロアゲハ *Papilio protenor* CRAMER

市街地から山地に分布する。雄は山頂で多くみかけ、夏期はクサギの花をよく訪れる。

採集記録は5月、6月、8月、9月である。

○採集例 9-V-1982 1♂ 城山⑥

(7) オナガアゲハ *Papilio macilentus* JANSON

山麓から山地でみられる。雄が山頂まで飛来することは稀で、多くは谷筋を飛ぶ。蛇谷⑩では春季、本種とジャコウアゲハ雄が混飛するのが見られた。幼虫はサンショウ(栽培)で見かけた例があるだけである。

採集記録は5月、8月、9月である。

○採集例 5-V-1983 1♂ 芦屋川②

(8) ナガサキアゲハ *Papilio memnon* LINNAEUS

市街地から山麓に分布する。私が市内で本種を最初に目撃したのは1979年9月22日で芦屋川②に沿って飛翔する雄であった。以後毎年見るが、雌は稀である。雄は山麓では谷筋を飛び、山頂域での目撃はない。訪花はクサギで観察した。また雌が止っている乗用車のテールライト(赤)に対し訪花様の挙動を示したのを観察した。幼虫は各種ミカンで見かける。

採集記録は5月、8月である。9月にもみられる。

○採集例 8-V-1983 1♂ 三条山城⑤

(9) カラスアゲハ *Papilio bianor* CRAMER

山麓から山地に分布する。訪花はクサギで観察した。850m以上の地域でも見かける。

採集記録は5月、8月、9月である。

○採集例 2-V-1983 1♂ 城山⑥

(10) ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* MÉNÉTRIÉS

成虫の記録は城山山頂だけで過去春型雄を2頭採集した。他に同地点で目撃しているが数はかなり少ない。芦屋川上流⑧のカラスザンショウから幼虫を一頭得た(1982年6月)。

採集記録は5月のみである。

○採集例 2-V-1983 1♂ 城山⑥

## 2. シロチョウ科 PIERIDAE

(1)モンキチョウ *Colias erate* ESPER

市街地から山地に分布するが市街地では南部埋立地を除いて稀である。

採集記録は9月、10月であるが4月頃から見かける。

○採集例 17-IX-1978 1♂ 奥池付近⑨

(2)ツマグロキチョウ *Eurema laeta* BOISDUVAL

本年採集するまでは1978年9月、10月の記録だけであった。本年は秋型がかなり多く発生したようで市街地から山地で見られた。夏型の記録はない。本種が市内に確実に産しているか否かは不明である。

採集記録は9月、10月である。

○採集例 1-X-1983 3♂2♀ 芦屋川上流⑧

(3)キチョウ *Eurema hecabe* LINNAEUS

市街地から山地にかけて広く分布し、850 m以上の地域にも見られる。平地では10月にも新鮮な夏型が見られる。

採集記録は6月、7月、9月、10月である。

○採集例 19-VI-1983 1♂ 三条山城⑤

(4)エゾスズグロシロチョウ *Pieris napi* LINNAEUS

本種が市内に産するかは課題の一つであったが本年下記の記録を得た。個体はかなり飛び古していた。

○採集例 18-VI-1983 1♂ 三条山城⑤

(5)スズグロシロチョウ *Pieris melete* MÉNÉTRIÈS

主に山麓から山地にかけて分布し、850 m以上の地域にもみられる。秋季には市街地南部でも見られることがある。

採集記録は4月、6月、7月、8月、9月である。

○採集例 26-VI-1983 1♂ 石宝殿付近⑫

(6)モンシロチョウ *Pieris rapae* LINNAEUS

市街地から山地にかけて分布するが、山地では前種に比較して少ない。850 m以上の地域でも見られる。

採集記録は4月、9月であるが、3月下旬から11月頃まで見られる。

○採集例 10-IX-1983 1♂ 奥池付近⑨

(7)ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* BUTLER

山麓から山地にかけて分布するが、市街地で目撃したこともある。

採集記録は4月、5月である。

○採集例 16-VI-1983 1♀ 城山⑥

## 3. シジミチョウ科 LYCAENIDAE

(1)ムラサキシジミ *Narathura japonica* MURRAY

主に山麓から山地にかけて分布するが、市街地でも見られる。

採集記録は6月、8月、9月である。

○採集例 19-VI-1983 1♀ 三条山城⑤

(2)ウラキシジミ *Ussuriana stygiana* BUTLER

本種を市内で最初に記録したのは城山山頂付近⑥であるが、以後見られない。三条町の山城には現在も生息しており、少数ながら毎年見られる。

採集記録は6月である。

○採集例 6-VI-1982 1♂ 三条山城⑤

(3)アカシジミ *Japonica lutea* HEWITSON

山麓から山地に分布する。採集した最高標高は800 mである。

採集記録は5月、6月である。

○採集例 6-VI-1982 1♂ 三条山城⑤

(4)ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* HEWITSON

採集地点は三条山城で、発生数は前種に比較し著しく少ない。例外的に市街地でみられることがあり、本年6月22日、自宅付近の津知町①で小学1年生の次男が手づかみで採集した。自宅①でも目撃したことがある。前種も本市に接する神戸市東灘区の市街地で目撃したことがある。夕刻の活動時に低山域の発生地より飛来するのかもしれない。

採集記録は6月である。

○採集例 18-VI-1983 1♀ 三条山城⑤

(5)ウラムシジジミ *Wagimo signata* BUTLER

採集地点は三条山城で、発生数はごく少ない。採集記録は6月である。

○採集例 12-IV-1983 1♂ 三条山城⑤

(6)ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* BREMER

山麓から山地に分布する。目撃した最高標高は650 m、本市ではアカシジミとともにゼフィルスの中では最も個体数が多く、また広く分布する。

採集記録は6月、7月である。

○採集例 26-VI-1983 1♀ 蛇谷⑪

(7)オオミドリシジミ *Favonius orientalis* MURRAY  
山地に分布するが稀である。城山⑥ではかつて数多く見られたが、近年は少なくなった。採集した最高標高は850m、雄・雌ともに見られた。

採集記録は6月、7月である。

○採集例 10-VII-1983 2♂1♀ 石宝殿付近⑫

(8)トラフシジミ *Rapala arata* BREMER

山麓から山地の谷筋に分布する他、東お多福山⑩の草原でも見られる。

採集記録は4月、5月、7月である。

○採集例 4-VII-1982 1♂ 柿谷⑦

(9)コツバメ *Callophrys ferrea* BUTLER

山麓から山地に分布し、発生期には個体数は多い。

採集記録は4月であるが、5月まで見られる。

○採集例 24-VI-1983 1♀ 柿谷⑦

(10)ベニシジミ *Lycaena phlaeas* LINNAEUS

市街地から山地に見られ、850m以上の地域にも見られるが市街地では少ない。

採集記録は4月、9月であるが、4月から10月まで連続的に見られる。

○採集例 26-VI-1981 1♂ 奥池付近⑨

(11)クロシジミ *Niphanda fusca* BREMER

採集地点は奥池付近⑨および芦屋川上流で奥池付近では毎年少数が発生している。

採集記録は7月、8月である。

○採集例 2-VII-1981 1♀ 芦屋川上流⑧

(12)ウラナミシジミ *Lampides boeticus* LINNAEUS

市街地から山地で見られる。8月頃から目につき始め秋に向って個体数を増す。

採集記録は8月、9月、10月、11月である。

○採集例 27-VIII-1978 1♂ 東お多福山⑩

(13)ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha* KOLLAR

市街地が中心であるが山地にも広く分布し、850m付近でも見られる。市街地では最も普通な種である。

採集記録は8月、9月、10月、11月であるが、4月頃から11月頃まで連続的に見られる。

○採集例 19-VIII-1979 1♂ 芦屋川②

(14)ルリシジミ *Celastrina argiolus* LINNAEUS

山麓から山地にかけて広く分布する。市街部でも稀に見る。

採集記録は4月、6月であるが、4月から10月まで連続的にみられる。

○採集例 12-VI-1983 1♂ 三条山城⑤

(15)ツバメシジミ *Everes argiades* PALLAS

山麓から山地にかけて分布する他、南部埋立地にも分布する。

採集記録は7月を除く4月から10月である。

○採集例 10-V-1981 1♂ 城山⑥

(16)ウラギンシジミ *Curetis acuta* MOORE

山麓から山地に分布する。秋には多くなり市街地でもよく見かける。

採集記録は6月、8月、9月、10月である。

○採集例 5-VI-1983 1♂ 三条山城⑤

#### 4. テングチョウ科 LIBYTHEIDAE

(1)テングチョウ *Libythea celtis* FUESSLY

山麓から山地に分布する。また市街地で見かけることもある。

採集記録は5月、6月である。

○採集例 16-V-1982 1♀ 蛇谷⑪

#### 5. マダラチョウ科 DANAIDAE

(1)アサギマダラ *Parantica sita* KOLLAR

山麓から山地で見られるが少ない。市街地でも目撃した。(10月、川西町①)

採集記録は5月、6月である。

○採集例 3-V-1983 1♀ 城山⑥

#### 6. タテハチョウ科 NYMPHALIDAE

(1)ウラギンズジヒョウモン *Argyronome laodice* PALLAS

山地のおよそ500m以上の地域に分布し、7月頃東お多福山に多い。訪花はオカトラノオ、アザミ類、ヒヨドリバナで観察した。

採集記録は7月、9月であるが8月にも見られる。

○採集例 9-VII-1983 1♀ 東お多福山⑩

## (2) オオウラギンスジヒョウモン

*Argyronome ruslana* MOTSCHULSKY

発生期には東お多福山のみで見られるが、秋には標高 500 m 付近でも記録した。訪花はオカトラノオで観察した。

採集記録は 7 月、10 月である。

○採集例 9-VII-1983 1♂ 東お多福山⑩

(3) メスグロヒョウモン *Damora sagana* DOUBLEDAY

山地の 500 m 以上の地域で目撃記録が 2 例 (いずれも 7 月) ある他、下記の採集例がある。訪花はオカトラノオで観察した。

○採集例 15-IX-1983 1♀ 奥池付近⑨

(4) ミドリヒョウモン *Argynnis paphia* LINNAEUS

ヒョウモン類では分布域は最も広く、山麓から山地にかけて見られる。秋には市街地でも見かける。市内で得た雌は暗色化の進んだもので明色の個体は得ていない。訪花はオカトラノオ、ヒメジョオン、アザミ類、マリーゴールドで観察した。

採集記録は 6 月、7 月、9 月である。

○採集例 12-VI-1983 1♂ 三条山城⑤

(5) ウラギンヒョウモン *Fabriciana adippe* LINNAEUS

山地のおよそ 600 m 以上の地域に分布する。850 m 付近では他のヒョウモンに比較して多い。訪花はオカトラノオ、ウツギで観察した。

採集記録は 6 月、7 月である。

○採集例 10-VII-1983 1♀ 石宝殿付近⑫

(6) ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* LINNAEUS

山頂部を雄が占有しているのを見かけるが少ない。雌の採集例は下記のみである。訪花はヒヨドリバナ、サワヒヨドリで観察した。

採集記録は 6 月、7 月、9 月である。

○採集例 10-VII-1983 1♂1♀ 東お多福山⑩

(7) サマイチモンジ *Limenitis glorifica* FRUHSTORFER

記録は下記の 1 例であるが、山地で時折見かける。次種より少ない。

○採集例 17-VIII-1980 1♀ 芦屋川②

(8) イチモンジチョウ *Limenitis camilla* LINNAEUS

山麓から山地に分布する。市街地でも目撃した。採集記録は 6 月、8 月である。

○採集例 5-VI-1982 1♂ 蛇谷⑪

(9) コミスジ *Neptis sappho* PALLAS

山麓から山地にかけて分布する。個体数は多い。

採集記録は 6 月、8 月であるが、5 月頃より発生し 10 月頃まで見られる。

○採集例 30-VIII-1978 1♂ 芦屋川②

(10) ホシミスジ *Neptis pryeri* BUTLER

主に山麓付近に分布しており、個体数は多い。市街地でも時折見かける。自宅①のユキヤナギで蛹のからを見出したことがある。山地では奥池付近の住宅地でもみられる。

採集記録は 6 月、8 月、9 月である。

○採集例 23-IX-1981 1♀ 六麓荘④

(11) サカハチチョウ *Araschnia burejana* BREMER

本種が本市に生息するか否かは不明である。表六甲では見ることのない種である。採集例は下記の 1 例だけで個体は古びたものである。

○採集例 22-IX-1979 1♀ 芦屋川②

(12) キタテハ *Polygonia c-aureum* LINNAEUS

主に山麓から山地に分布する。秋には市街地でも見ることがある。訪花はネズミモチ、マリーゴールドで観察した。

採集記録は 5 月、9 月、10 月である。

○採集例 28-V-1983 1♀ 三条山城⑤

(13) ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas*

DENIS & SCHIFFERMÜLLER

主に山麓から山地に分布する。かつて自宅付近①のエノキに大発生したことがあるが近年は見られない。

採集記録は 6 月、同月中に殆ど姿を見せなくなる。目撃記録は 7 月 3 日が本市で最も遅い。

○採集例 5-VI-1983 1♀ 城山⑥

(14) ルリタテハ *Kaniska canace* LINNAEUS

主に山麓から山地に分布するが市街地でも見られる。秋には自宅①のホトトギスで発生したことがある。(本年も発生した)

採集記録は 6 月である。

○採集例 5-VI-1983 1♀ 城山⑥

(15) ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* LINNAEUS

主に山麓から山地にかけて見られるが秋には市街地でも見る。

採集記録は9月、10月であるが7月頃から見られる。秋には明かに個体数は増す。6月以前の確実な記録は得ていない。訪花はヒメジョオン、ヒヨドリバナ、マリーゴールドで観察した。

○採集例 15-IX-1983 1♀ 蛇谷①

(16)アカタテハ *Vanessa indica* HERBST

主に山麓から山地に分布するが、越冬個体は市街部でよく見る。

採集記録は5月、9月である。

○採集例 28-V-1983 1♂ 三条山城⑤

(17)スミナガシ *Dichorragia nesimachus* BOISDUVAL

1960年代に朝日ヶ丘③で1頭採集した例があるがその後記録できず。当該個体はその後放棄し、データも失った。なお採集地点付近はその後の宅地開発でまったく形を変え、生息環境は破壊された。

(18)コムラサキ *Apatura metis* FREYER

山麓に分布する。芦屋川畔のヤナギ類から発生している模様である。

採集記録は8月、9月である。

○採集例 8-VIII-1980 1♀ 芦屋川②

(19)ゴマダラチョウ *Hestina japonica* C.&R. FELDER

山麓から低山地に分布する。採集記録は6月であるが8月にも見られる。かつて朝日ヶ丘③のクヌギ林ではカブトムシやクワガタ類とともに本種や前種が樹液に集まっているのがよく見られた。

○採集例 24-VI-1979 1♂ 三条山城⑤

7. ジャノメチョウ科 SATYRIDAE

(1)ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* BUTLER

山麓から山地に広く分布し、個体数は多い。

採集記録は5月、9月である。

○採集例 16-V-1982 1♂ 奥池付近⑨

(2)ウラナミジャノメ *Ypthima motschulskyi* BREME & GREY

かつて奥池付近では毎年確実に採集できたが、宅地開発後姿を消したようで、ここ3~4年からの発生地(地形があまり変わったのでよくわからないが)あたりを調査するものの発見できない。

1962年7月29日付の日記に奥池付近で本種を採集したとの記述がある。

(3)ジャノメチョウ *Minois dryas* SCOPOLI

山麓から山地にかけて局地的に分布する。一般に草原様環境で見られるが、城山山頂付近⑥の樹林の中でも目撃したことがある。850mを超える地域でも見られる。

採集記録は7月、8月である。

○採集例 5-VIII-1983 1♂ 石宝殿付近⑫

(4)クロヒカゲ *Lethe diana* BUTLER

山麓から山地にかけて分布している。850mを超える地域でも見られる。訪花は次の1例を観察した。すなわち本年9月3日、芦屋川上流⑧のヒヨドリバナに本種雌が飛来、約7分間とどまり、その間吸蜜を繰り返した。花上の動作は訪花性の蝶より不器用であった。

採集記録は5月、6月、9月である。山地では9月頃次種より多くみられる。

○採集例 26-VI-1983 1♂ 石宝殿付近⑫

(5)ヒカゲチョウ *Lethe sicelis* HEWITSON

山麓から山地に分布する。個体数は多い。

採集記録は5月、6月、8月である。

○採集例 4-VI-1983 2♂ 三条山城⑤

(6)サトキマダラヒカゲ

*Neope goschkevitschii* MÉNÉRIÈS

山麓から山地に分布する。個体数は多い。

採集記録は5月、6月、8月である。

○採集例 22-V-1983 1♂ 東お多福山⑩

(7)ヒメジャノメ *Mycalesis gotama* MOORE

普通種のはずであるが、本市の蝶の記録を本年始めまとめてみると、本種が未記録になっており、シーズン中探していたがなかなかみられず、結局下記の記録他1例にとどまった。次種は多く見られるが、本種がどの程度産するかは現在不明である。

○採集例 19-IX-1983 1♂ 芦屋川上流⑧

(8)コジャノメ *Mycalesis francisca* CRAMER

山麓から山地に分布する。個体数は多い。

採集記録は5月、7月、8月である。

○採集例 14-V-1983 1♂ 三条山城⑤



(9)ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus* FABICIUS

現在は奥池付近の湿地に生息するが、1950年代に六麓荘④でみかけたことがある。同地点は現在学校施設となっている。奥池付近では6月下旬から8月上旬にみられる。本年7月3日に同地を訪れた時には雌、雄の成虫と終令幼虫がみられた。

○採集例 21-VI-1981 1♂ 奥池付近⑨

山麓から山地に分布する。

採集記録は7月、8月である。

○採集例 7-VII-1982 1♀ 柿谷⑦

## 8. セセリチョウ科 HESPERIIDAE

(1)ミヤマセセリ *Erynnis montanus* BREMER

山麓から山地に分布する。

採集記録は4月である。5月までみられる。

○採集例 16-VI-1983 1♀ 城山⑥

(2)ダイミョウセセリ *Daimio tethys* MÈNÉTRIÈS

山麓から山地に分布する。個体数は多い。

採集記録は5月、6月、9月である。

○採集例 9-V-1982 1♂ 城山⑥

## (3)アオバセセリ

*Choaspes benjaminii* GUÉRIN-MÈNÉVILLE

城山山頂付近で見られる。ここ数年見られなかったが、本年5月14日に1頭目撃した。

採集記録は6月である。

○採集例 6-VI-1976 2♂ 城山⑥

(4)コチャバネセセリ *Thoressa varia* MURRAY

山麓から山地に分布する。

採集記録は5月～8月である。

○採集例 16-V-1982 1♂ 芦屋川上流⑧

(5)ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochracea* BREMER

標高400m以上の山地に分布する。石宝殿付近では6月下旬から7月上旬に多産する。

採集記録は6月、7月である。

○採集例 10-VII-1983 2♀ 石宝殿付近⑩

(6)キマダラセセリ *Potanthus flavum* MURRAY

山麓から山地に分布する。個体数は多い。

採集記録は6月～9月である。

○採集例 5-VII-1981 1♂ 奥池付近⑨

## (7)ホソバセセリ

*Isoteinon lamprospilus* C. & R. FELDER

## (8)オオチャバネセセリ

*Polytremis pellucida* MURRAY

山麓から山地に分布するが個体数は多くない。

採集記録は6月、7月、9月である。

○採集例 5-VII-1981 1♀ 芦屋川上流⑧

## (9)ミヤマチャバネセセリ

*Pelopidas jansonis* BUTLER

芦屋川上流から蛇谷の標高400m～550mの範囲に見られる。個体数は少ない。

採集記録は5月、6月、8月である。

○採集例 6-VI-1981 2♂ 蛇谷⑪

(10)チャバネセセリ *Pelopidas mathias* FABRICIUS

市街地から山地にかけて採集記録があるが、いずれも9月、10月でそれ以前の記録はない。目撃記録で最も遅いのは1979年11月25日に自宅①の菊の花上で見たものである。

○採集例 22-X-1978 1♂ 芦屋川②

## (11)イチモンジセセリ

*Parnara guttata* BREMER & GREY

市街地から山地に広く分布する。秋には最も目につく種の一つである。

採集記録は5月、6月であるがそれ以後11月頃まで見られる。

○採集例 24-VI-1979 1♂ 芦屋川②

## VI. 西宮市・神戸市の記録との比較

芦屋市での私の記録と西宮市、神戸市の記録（完に偶産種と考えられる種を除く）を科別の種数で比較した結果を表3に示す。ここで西宮市の記録は日浦勇等の報告<sup>7)</sup>、神戸市の記録は加藤昌宏等の報告<sup>16)</sup>にもとずいたが、表3につづく註に示すとおり一部修正し、西宮市の蝶を85種、神戸市の蝶を90種として本市記録と比較した。本市内で私が記録した74種は西宮市に対し11種、神戸市に対し16種少ない。この内訳を3市間で示したものが表4で、芦屋市または西宮市に記録があり神戸市に記録がない種は、偶産種を除いてはない。すなわち90種が六甲山域を中心とした三市地域で採集され得る蝶の限度と考えることができる。と

ところで本市の私の記録が74種と当地方記録に対し16種少ない原因は、(I)現在まで地域的、季節的な未踏査域がかなりあり、未知の生息地が存在し得ること、(II)分布しているものの個体数が少なく、目撃あるいは採集の機会に恵まれなかったこと、(III)局地的に分布している種では本市域内に分布していない種が考えられること、が挙げられる。

以上の原因の中で(III)については表4に示すとおり本市におけるミスジチョウ・クロコノマチョウの記録がすでに発表<sup>5)</sup>されている(データはなし)等、私以外の方々による本報告74種以外の本市記録がすでにあるかと思うが、寡聞にして上記例以外知らない。なおクロコノマチョウは現在まで本市に分布している種とは断定できない(タイワンモンシロチョウの記録<sup>14)</sup>は完全な偶産として除く)。(III)の例としてはギフチョウ、オオムラサキがまず挙げられる。この2種は西宮市、神戸市では局地的に分布するものの本市域内には分布していない。その他にも今後市域内を精査することによって(III)に該当する種がいくつか明らかになろう。これは本市の蝶の主たる生息地である山地面積がおおよそ10km<sup>2</sup>とごく狭く、局地種の分布する確率が当然低くなることによる。

ところで今後本市において何が記録されるか、私にとって興味ある課題の一つであるが、先の(III)の例として挙げた2種を除く表4の各種の範囲と考える。その中でウラゴマダラシジミおよびクモガタヒョウモン(いずれも(II)に当ると考える)は記録される可能性の最も高い種である。その他にも市域の精査によっては2~3種の存在が考えられる。

表3 芦屋市・西宮市・神戸市の蝶の科別記録数

科	市	芦屋	西宮	神戸
アゲハチョウ		10	10+1 <sup>V)</sup>	11
シロチョウ		7	6	7
シジミチョウ		16	21	21 (1) <sup>I)</sup>
テングチョウ		1	1	1
マダラチョウ		1	1	1
タテハチョウ		19	22	22 (2) <sup>II)</sup>
ジャノメチョウ		9	10	10 (1) <sup>III)</sup>
セセリチョウ		11	13	11+1 <sup>IV)</sup> (1) <sup>IV)</sup>
合計		74	84+1	84+1 (5)
本文取扱い種数		74	85	90

表4 各市未記録種の内訳

科	記録のある市	神戸・西宮	神戸	芦屋・神戸	備考
	記録のない市	芦屋	芦屋・西宮	西宮	
アゲハチョウ		ギフチョウ	—	—	
シロチョウ		—	—	エゾスジグロシロチョウ	西宮市にエゾスジグロシロチョウは分布すると考えられる
シジミチョウ		ウラゴマダラシジミ ミドリシジミ ゴイシシジミ シルビアシジミ クロツバメシジミ	ムラサキツバメ	—	
テングチョウ		—	—	—	
マダラチョウ		—	—	—	
タテハチョウ		クモガタヒョウモン ミスジチョウ <sup>註)</sup> イシガケチョウ オオムラサキ	オオウラギンヒョウモン	ウラギンヒョウモン	西宮市にウラギンヒョウモンは分布すると考える。 注)文献記録あり <sup>5)</sup>
ジャノメチョウ		クロコノマチョウ <sup>註)</sup>	ヤマキダラヒカゲ	—	註)文献記録あり <sup>5)</sup>
セセリチョウ		ギンイチモンジセセリ ヘリグロチャバネセセリ	—	—	

註) 表 3 を作成するに当り西宮市および神戸市の記録を整合するため、神戸市記録文献で偶産種(稀少種)として別扱いになっている種の中で西宮市文献で分布種として取扱われている種については神戸市分布種として取扱った。表中( )内にその種数を示す。また使用した西宮市、神戸市の記録文献中には記載されていないものの他の文献で分布が明らかになっている種については+の後の値で種数を示し、分布種として加えた。以下に種名を示す。

I) クロツバメシジミ、 II) イシガケチョウ、サカハチチョウ、 III) クロコノマチョウ、 IV) ヘリグロチャバネセセリ、 V) ナガサキアゲハ<sup>17)</sup>、 VI) ミヤマチャバネセセリ<sup>1)</sup>

## V. あとがき

六甲山を含むとはいえ当地方の蝶相は近頃の採集者にとってかならずしも魅力的ではないようだ。芦屋市に限るとまさにそのとおりでここ数年、幾度か本市の山中を歩き回ったものの、同好者をみかけたのはわずかに2度である。私もかつてはシーズンともなれば市内を離れることが多かった。ただ六甲には幼少の頃からの数々の思い出があった。それだけにちょっとした時間を得た日は裏山へ入って思い出を追った。すでに述べたように蝶の採集を10年間程、中断したことがある。再びネットを手に訪れたかつての採集地の多くは昔の姿で私を迎えたが、中には最早思い出を追うこともできぬ程変わってしまった所もあった。だがその中になお、細々と生きつづけるものに再会した時、感動した私を今も覚えている。あの感動が本報告をまとめる動機の一つになった。

本報告で述べた各種のデータには分布、生態等で多くの不足が目立った。これは私がただひたすら種数を追った結果による。今後これら不足のデータを得るとともに本市の生息環境と蝶を始め昆虫相との係わりを追っていきたいと思っている。

本報告をまとめるに当り、本同好会の山本広一氏、広畑政己氏、大阪市立自然史博物館の宮武頼夫氏には文献等で多大のお世話になった。ここに深甚なる謝意を表します。

## 参考文献

1. 樽谷明吉(1902). 六甲山の南御影地方に産する蝶類の追加報告、動物学雑誌、14 (162)

: 155—156.

2. 小林賢三(1930). 六甲山の蝶相、関西昆虫学会々報(1): 63—73.
3. 原 実・吉阪道雄(1952). ウラナミジャノメ夏型の採集記録、MDKNEWS、5 (4): 7.
4. 白水 隆(1958). 日本産蝶類分布表、北隆館、東京
5. 山本広一・吉阪道雄(1960). 兵庫県産蝶類目録(3) 兵庫生物、4(1): 37—44, 46.
6. 田中利典(1969). 六甲山、摩耶山の蝶、MAIMAI(1): 1—8.
7. 日浦 勇・瀬戸 剛・宮武頼夫(1972). 西宮市の生物相、西宮市の自然保護および利用に関する基礎調査報告書: 83.85—87
8. 福田晴夫ほか(1972). 原色日本昆虫生態図鑑、III チョウ編、保育社、大阪.
9. 藤岡和夫(1975). 日本産蝶類大図鑑、講談社、東京.
10. 川副昭人・若林守男(1976). 原色日本蝶類図鑑、保育社、大阪.
11. 高田忠彦・井手敏晴(1978). 兵庫県産蝶類調査報告 [I]、MDKNEWS、28(79): 1—69.
12. 大阪市立自然史博物館(1978). 大阪の昆虫、陸生篇: 36—37.
13. 三木 進(1979). 六甲山系(西部)の蝶、きべりはむし、7(1): 2—7.
14. 足立尚計(1980). 兵庫県で台湾モンシロチョウを採る、蝶と蛾、30(3/4): 171.
15. 高橋寿郎(1981). 六甲山の昆虫たち、神戸新聞出版センター、神戸.
16. 加藤昌宏・武衛晴雄(1981). 神戸の蝶、神戸市立教育研究所、神戸.
17. 沢田勝己(1981). 西宮市でナガサキアゲハ採集、昆虫と自然、16(14): 7.
18. 室井 紳・清水美重子(1982). 六甲の自然、神戸新聞出版センター.
19. 杜 隆史(1982). 六甲山系の蝶、Crude(23): 67—73.
20. 高橋寿郎(1982). 兵庫県産蝶類に関する文献目録、てんとうむし、(8): 57—77.
21. 毎日新聞社神戸支局(1969). 六甲山を切る、中外書房、神戸.
22. 芦屋市消防本部(1982). 気象統計.
23. 気象庁(1982). 全国気温、降水量月別平均値表、観測所観測(1951—1978). (S.78 Takahiro Nishi 芦屋市 )